

日本の世帯属性別貯蓄率の動向について*

宇南山 卓 (一橋大学)

大野 太郎 (信州大学)

概要

本稿では、全国消費実態調査のマイクロデータに基づき、マクロ統計と整合的でありなおかつ世帯属性別に分析が可能な貯蓄率のデータを構築した。かつて国際的にも高かった日本の家計貯蓄率は、ほぼゼロになるまで急激に低下している。ライフサイクル仮説に基づけば高齢化の進展によって貯蓄率は低下することが予想されることから、貯蓄率の低下の主因は高齢化と考えられている。ここでは、複数のマイクロデータを補完的に用いて国民経済計算と整合的なデータを構築し、高齢化が貯蓄率の低下に与えた影響を計測した。その結果、単純な高齢化によって説明できる貯蓄率低下は、全体の1/4程度であった。さらに、自営業等の世帯の減少という就業行動の変化も考慮し、高齢化の影響を計測しても全体の1/3しか説明できなかった。

* 本研究の一部は、経済産業研究所のプロジェクトの一部である。また、本研究は科学研究費補助金の資金援助を受けている(基盤研究(B) 15H03357, (A) 15H01943, (A) 25245037)。吉川洋教授(立正大学)より、貴重なコメントを頂いた。総務省統計局には、全国消費実態調査・家計調査・家計消費状況調査のマイクロデータを利用することを許可していただいた。これらについて、記して感謝したい。